

交渉NEWS

東日本ユニオン東京地本

NO, 10

2020年 4月 1日

「渋谷駅埼京ホーム移設に伴う業務体制の見直し」提案を受ける。

表題について、4月1日13:30より支社から提案を受けました。

「超大編成列車」に対して、新たな“渋谷駅埼京ホーム”において「乗降終了合図」を掲出するため、『営業職社員の標準数を+3→1増やす』『必要な教育は実施する』『6月1日実施』するという内容でした。

渋谷駅周辺は大規模都市再開発が実施され各種工事も目白押しです、おおむね2027年の完成まで線路切り替えや動線の変更、駅施設・設備の移転・改良など目まぐるしく変化して行くことになります。

あわせて、JRだけでなく私鉄や地下鉄に関しても大きく変化することになります。

「働く仲間たちのために」地本は皆さんのが声をもとに、疑問を払拭し、より働きやすく安全な職場を目指し取り組みます。些細なことや気がかりがありましたらお知らせください。

よろしくお願いします。

＜私たちの主張＞

- ・乗降終了合図を掲出するのはなぜか
- ・合図者は資格を有することが条件か
- ・埼京線担当は、上下別々か
- ・本施策に関しての異動はあるのか
- ・必要な教育とは
- ・渋谷駅改良工事の終了目途は
- ・改札口が“無人”な箇所ある、無策のままでは不正乗車の温床となるのでは
- ・渋谷駅の業務委託は考えているか

＜支社側の主張＞

- ・長大編成列車に対して乗降終了確認が困難なため、安全確保のために“乗降終了合図”を掲出こととした
- ・合図者は、有資格者とは限らない
- ・現場での作業ダイヤ作成で検討される
- ・ジョブローテーションなどの施策もある、異動は任用の基準による
- ・渋谷駅改良工事および駅周辺開発は2027年を目途にスケジュール調整している
- ・不正乗車対策は「FG強化」などで対処する
- ・運転整理などの業務がない、駅業務委託の要件は具備しているが現時点での具体的提案はない



高輪ゲートウェイ駅の開業に見られるように、『駅』に求められることは変化・進化・発展しています。そして『駅』は、街の創造・再開発に不可欠な要素になっています。

『駅』に働く私たちは、この変化・進化・発展などに“身を任す”ばかりではなく、日々の現実に立って“安全・安定・快適”的継続的提供を実現するための『条件整備』を欠くことなく検討・提言していくかなければなりません。

JR東日本に働く全ての労働者のために、歩を止めるわけにはいきません。皆さんのが声を聞かせてください。